

6 行事・イベント

(1) 講演会

ア 蔵出し考古展「鏡・玉・剣」関連イベント

「熊本市の青銅器文化」講演会

日 時 8月18日(日)

13時～16時

場 所 講堂

講 師 武末 純一 氏(福岡大学教授)

主 催 熊本博物館・埋蔵文化財調査室

参加者 43名

【内容】

熊本市内の発掘調査で出土した弥生時代と古墳時代の「鏡・玉・剣」に関する展示を行った。

講演会に先立ち、文化振興課埋蔵文化財調査室職員による「上代町遺跡群の調査成果」について、資料の概要説明と出土状況などについて話があった。

講演会は、上代町遺跡出土の赤漆塗木製剣柄と八ノ坪遺跡の青銅器鑄造関連資料を中心に、渡来した無文土器人集団との関係を考察しながら進められた。講師は青銅器研究の第一人者であり、パワーポイントを使用し、配布資料は32頁にも及ぶもので関連資料が豊富に掲載され、専門的な用語が多く出てきたにもかかわらず、熱心に聴講する姿が見られた。

まとめとして、今回のテーマになった各種関連資料からみて、渡来系鑄造技術者集団を統括する首長層やクニが熊本平野に存在し、朝鮮半島とも交流した可能性が指摘された。こうした考えは以前からあったが、具体的な資料に基づき考察された意義は大きい。今後の熊本の青銅器文化を考えるうえで大きな示唆が与えられた。

質疑応答も活発に行われ、講演会終了後の展示資料解説は人だかりができるほどで、全体として非常に盛況であった。



「熊本市の青銅文化」講演会

イ 特別展「追憶の熊本」関連イベント

展覧会事前講座「忘れられた画家?! 甲斐青萍～
秋季特別展《追憶の熊本》に向けて～」

日 時 9月21日(土)

10時～11時

場 所 講堂

講 師 竹原 明理(美術工芸)

主 催 熊本博物館

参加者 5名

【内容】

10月5日(土)より開催する特別展「追憶の熊本—画家・甲斐青萍が描いた熊本城下の記憶—」に先立ち、展覧会の見どころや甲斐青萍の人物像について紹介。

ウ 特別展「追憶の熊本」講演会

「甲斐青萍が描いた熊本町並図から見えること」

日 時 10月12日(土)

13時30分～15時30分

場 所 講堂

講 師 伊藤 重剛 氏(熊本大学名誉教授)

主 催 熊本博物館

参加者 48名

【内容】

平成29年(2017年)に『甲斐青萍熊本町並画集—江戸・明治・大正・昭和—』を出版し、第39回熊日出版文化賞を受賞した熊本大学名誉教授・伊藤重剛氏による講演。

甲斐青萍の生き立ち、青萍の町並図を手がかりに熊本の町並みを調査して明らかになったことなどを紹介。武家屋敷を中心とした江戸時代の町並みから、陸軍施設を中心とした明治以降の中心部の開発と発展など、現在も日々変わりゆく熊本の町並みを見直すきっかけとなった。



エ 特別展「追憶の熊本」関連イベント

「熊本城下まち歩き」

日 時 10月26日(土)

13時30分～15時30分

場 所 熊本城周辺

講 師 伊藤 重剛 氏(熊本大学名誉教授)

主 催 熊本博物館

参加者 12名

【内容】

熊本城周辺を中心に、甲斐青萍が町並図で描いた場所を訪ねる「まち歩き」を行った。博物館を出発し、二の丸広場～城彩苑～花畑町～銀座通り～栄通～下通・上通～藪之内(現在の城東町付近)を散策した。現在はビルが立ち並ぶかつて「追廻田畑」と呼ばれた一帯は、高低差があった地帯で、写真などに残されていない町の様子を青萍がつぶさに描いた町並図は非常に貴重な記録であることを再認識した。現在、宿泊施設が立つ城東町一帯は、かつて済々黌等の校舎があり、熊本市中心部の文教地区ともなっていた。これまでの伊藤氏らによる調査によって明らかになったことと、参加者の記憶が時折リンクし、さまざまな会話が生まれ、熊本市中心部

の歴史を辿るうえでも貴重な機会となった。



オ 特別展「追憶の熊本」講演会

「熊本地震からの城下の復旧について」

日 時 11月4日(月・振)

13時30分～15時

場 所 講堂

講 師 富士川 一裕 氏(NPO法人
熊本まちなみトラスト事務局長)

主 催 熊本博物館

参加者 38名

【内容】

NPO法人熊本まちなみトラスト事務局長であり、(株)人間都市研究所代表取締役でもある富士川一裕氏による講演。

以前から取り組まれている熊本のまちづくりに関する活動の紹介に加え、「熊本地震からの城下の復旧について」と題し、平成28年熊本地震以後に取り組んでいる町屋の復旧状況などを報告。熊本地震以後急激に変化している熊本城下の様相を考えるうえで貴重な場となった。



カ 「生命のれきし」関連講演会

「きみの耳には恐竜がいて?! だから、きみは哺乳類」

日 時 1月11日(土)
15時～16時30分

場 所 プラネタリウム室

講 師 木村 由莉 氏

(国立科学博物館研究員)

主 催 国立科学博物館 熊本博物館

参加者 108名

【内容】

小型哺乳類化石の専門家である国立科学博物館の研究員：木村由莉氏を講師に迎え、哺乳類につながる脊椎動物の進化に関する講演会を開催した。当館で開催中であった「生命のれきし」展に展示中の化石はもとより、国立科学博物館の常設展示室にある標本の写真も交え、骨格からわかる動物の進化の歴史を紹介した。収斂進化により外見的特徴が似ている海棲爬虫類ティロサウルスと鯨類のバシロサウルスを例に、姿は似ていても進化の過程で生じた系統的な特徴により両者を区別できることを示した。

下顎が複数の骨からなる爬虫類と、一つの骨のみからなる哺乳類との違いの話題では、参加者に自分の顎を触れて確かめさせるなど、小学生でも楽しみながら参加できる工夫も凝らされていた。恐竜や現生爬虫類の系統では顎関節を担っていた骨が、哺乳類では聴覚を司る耳小骨に組み込まれていることも紹介され、演題のとおり私たちの体に残る特徴から、脊椎動物の長い進化を実感できる講演会であった。



キ 「旅の巨人」と呼ばれた民俗学者・宮本常一

—熊本で見つけたモノ— 関連講演会①

「宮本常一、旅の足跡」

日 時 2月8日(土)
13時30分～15時

場 所 講堂

講 師 高木 泰伸 氏

(宮本常一記念館学芸員)

主 催 熊本博物館

参加者 65名

【内容】

宮本常一の半生を本人が記した『民俗学の旅』などの著書をもとに紹介。講演では、幼少期の経験、父親から訓示を受けた十箇条の話、教員時代に影響を受けた生活綴方運動、北海道入植者を引率したことや離島振興を進めたことに関する苦悩などを取り上げた。そのうえで、宮本常一が生涯を通して考えた「旅」・「進歩」とは何かに注目した。宮本にとっての「旅」は「学ぶものであり、考えるものであり、また多くの人々と知己になる行動」であった。また、「進歩」に対しては「退歩しつつあるものを進歩と誤解し、時にはそれが人間だけでなく生きとし生けるものを絶滅にさえ向かわしめつつあるのではないかと思うことがある」と述べていることに言及した。そして、「進歩のかげに退歩しつつあるものを見定めてゆくことこそ、今われわれに課されている重要な課題ではないかと思う」と宮本が述べていることにふれ、その重要性を認識することが大切であり、私たちが受け止めなければならないものであるとまとめられた。

※以下の講演会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

関連講演会②「我が師 宮本常一」

日 時 3月14日(土)
13時30分～15時

講 師 段上 達雄 氏 (別府大学教授)

(2) ゴールデンウィークイベント

各学芸班職員の専門性を活かし、4月27日から5月6日までのG・W(10連休)期間中に多種多様なイベントを開催。博物館活動の多面的な魅力をPRするねらいで実施した。

ア 火起こし・石臼体験! 「きな粉を作ろう」

小学校4年生以上を対象に、火打ち石で起こした火で大豆を炒り、石臼で引いてきな粉を作った。

日 時 4月27日(土)

5月1日(水・祝)

①10時40分～11時40分

②13時10分～14時10分

③15時50分～16時50分

場 所 実験・工作室

担当者 福西 大輔(民俗)

参加者 104名



イ 漢詩の世界へようこそ

当館と熊本市後藤山記念館が所蔵する漢詩作品を教材として漢詩の基本を学んだ。

日 時 4月27日(土)

13時30分～15時30分

場 所 講堂

講 師 林 孝子 氏

(熊本県漢詩連盟事務局長)

担当者 木山 貴満(歴史)

参加者 18名

ウ ミョウバンの結晶を作ろう

温度による溶解度の違いを利用し、ミョウバン

の再結晶を体験できるイベントを企画した。横幅が5mm程度だった種結晶が2cm以上に成長したのもあり、美しい結晶を大満足の様子で持ち帰ることができた(持ち帰りは翌日以降)。

日 時 4月28日(日)

①13時～ ②14時～

③15時 ④16時～(各30分)

場 所 実験・工作室

担当者 山口 均(理工)

参加者 96名



エ 草木染め体験

小中学生を対象にタマネギの皮を用いて染色体験を行い、各自オリジナルのハンカチを作成した。

日 時 4月29日(月・祝)

13時30分～15時30分

場 所 実験・工作室

担当者 山口 瑞貴(植物)

参加者 23名



オ みんなで考古学!

普段は触る機会が少ない土器や石器の実物に触れてもらい、考古学者になったつもりで大昔のことを考えた。

日 時 4月30日(火・休日)
13時30分～15時30分
場 所 実験・工作室
担当者 中原 幹彦(考古)
参加者 15名



カ 宮沢賢治の星座早見を作ろう

プラネタリウム番組「賢治の星座早見」に登場する星座早見の工作を行った。

日 時 5月1日(水・祝)
① 9時30分～ ②10時45分～
③13時15分～ ④14時30分～
⑤15時45分～
場 所 講堂
担当者 野村 美月(天文)
参加者 70名

キ 生きもの観察会

博物館周辺を歩き、昆虫を中心に身近な生きものの観察を行った。

日 時 5月2日(木・祝)
10時～11時30分
場 所 博物館周辺
担当者 清水 稔(動物)
参加者 55名

ク カラフルアンモナイトを作ろう

お湯で軟化する樹脂を型に押し当て、カラフルなアンモナイトを作る。

日 時 5月3日(金・祝)
①13時～ ②14時～

③15時～ ④16時～(各30分)

場 所 実験・工作室
担当者 南部 靖幸(地質)
参加者 121名



ケ 舟屋形の天井画

熊本城天守閣内から修復・移築した重要文化財「細川家舟屋形」について、修復事業のメインとなった天井画の未公開映像を交えて紹介。

日 時 5月3日(金・祝)
13時30分～15時
場 所 講堂
担当者 木山 貴満(歴史)
参加者 10名

コ 刀のいろは

刀剣研磨師・正海裕人氏を講師に迎え、刀剣の鑑賞のポイントから基本的な取り扱いを紹介。

日 時 5月4日(土・祝)
13時30分～15時30分
場 所 講堂、1階常設展示室
講 師 正海 裕人 氏(正海刀剣研磨処)
担当者 竹原 明理(美術工芸)
参加者 18名



サ 鉱物パンニング体験

パンニング盆(砂金探し用のお盆)を使い、砂金やザクロ石などの重鉱物を砂の中から見つけ出す模擬体験を行った。

日 時 5月5日(日・祝)
13時～16時30分
場 所 南側玄関
担当者 南部 靖幸(地質)
参加者 168名

ス 博物館周辺の考古学

博物館周辺の熊本城二の丸、三の丸を巡り、発掘調査成果を基に江戸時代と現在の違いを探った。

日 時 5月6日(月・振)
13時30分～15時30分
場 所 博物館周辺
担当者 中原 幹彦(考古)
参加者 5名

シ 科学工作を楽しもう

小学校3年生の理科で学ぶ「風やゴムのはたらき」の内容に関連させた教室で、「CDホバークラフト」「紙バック(Back!)」という2種類の科学工作を行った。

日 時 5月5日(日・祝)
①13時～ ②14時～
③15時 ④16時～(各40分)
場 所 実験・工作室
担当者 山口 均(理工)
参加者 128名



CDホバークラフト

(3) くまはく誕生月間

当館の開館日（1952年2月4日）にあわせ、2月を「くまはく誕生月間」として多様なイベントを実施。期間中に3回来館された方にはサメの歯化石を進呈した。

ア 静電気グッズを作って遊ぼう

摩擦によってプラス・マイナスに帯電した物質間に働く斥力と引力を体感的に学ぶための科学工作。ビニル紐（PP紐）とペンシルバルーン双方にマイナス電荷を帯びさせ、PP紐を宙に浮かせる「電気くらげ」や、空き缶と押しピンを使った「静電気ベル」の製作を行った。

日時 2月1日（土）

13時30分～14時30分

場所 実験・工作室

指導者 山口 均（理工）

参加者 68名



静電気ベル

イ コズミックカレッジ「惑星モビールを作ろう」

惑星モビールを作りながら、太陽系の惑星やそれらを調べた探査機について楽しく学んだ。

日時 2月2日（日）

14時30分～16時30分

場所 実験・工作室

担当者 野村 美月（天文）

参加者 30名



ウ 野鳥観察会

講堂にて双眼鏡の使い方や身近な野鳥についての学習の後、博物館から熊本城野鳥園一帯を歩き、目につく野鳥の観察を行った。

日時 2月9日（日）

10時～12時

場所 講堂、博物館周辺

担当者 清水 稔（動物）

参加者 31名

エ 熊本城歴史ウォーク

熊本城二の丸、三の丸地域を中心に歴史スポットを巡った。

日時 2月9日（日）

13時30分～15時

場所 熊本城二の丸、三の丸

担当者 木山 貴満（歴史）

参加者 25名



オ 紫キャベツでカラフルお絵かき

紫(レッド)キャベツの色素(アントシアニン)を煮出し、ろ紙に染み込ませて紫色の台紙を作った。身近な果汁や水で薄めた液体洗剤等を絵具の代わり、綿棒を筆の代わりにして、作ったキャベツ紙にカラフルなお絵かきをした。

日 時 2月11日(火・祝)

①13時30分~14時30分

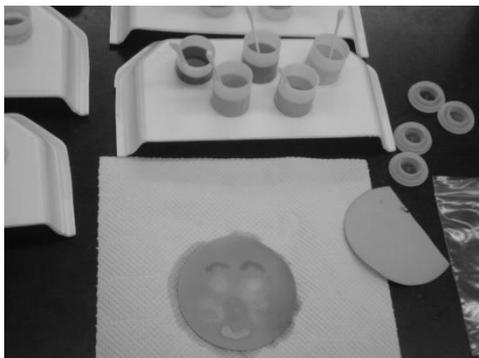
②15時~16時

場 所 実験・工作室

指導者 山口 均(理工)

協力者 ものづくりサークル会員:2名

参加者 125名



紫キャベツ紙でカラフルお絵かき

カ 紙バック(Back!)を作ろう

小学校理科(3年生)で学ぶ内容との関連で、ねじれたゴムが元に戻ろうとする性質(弾性)について学ぶことができる簡単な科学工作を行った。

日 時 2月15日(土)

①13時30分~14時30分

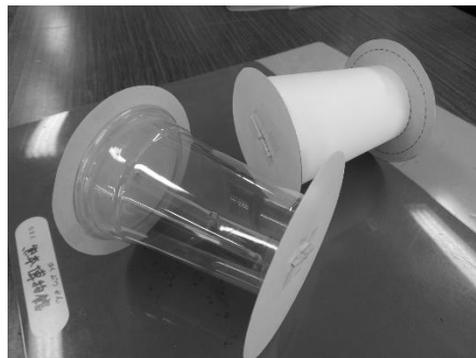
②15時~16時

場 所 実験・工作室

指導者 山口 均(理工)

協力者 ものづくりサークル会員:2名

参加者 65名



紙バック(Back!)

キ 飛ぶタネの模型を作ろう

小中学生を対象に様々な種子の散布方法について紹介し、種子標本を観察したのち、風散布型の種子の紙模型を作った。

日 時 2月16日(日)

14時~15時

場 所 講堂

担当者 山口 瑞貴(植物)

参加者 18名

ク 西南戦争遺跡巡り

当日は熊本城が炎上した日なので、籠城戦最大の激戦地段山を中心に、資料を基にして当時の状況を想像しながら歩いた。

日 時 2月19日(水)

10時~15時

場 所 段山、二の丸など熊本城一帯

担当者 中原 幹彦(考古)

参加者 14名



※以下のイベントは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

ケ くまはくのイチ推し資料！絵画資料編

日 時 2月22日（土）
10時～11時30分
場 所 講堂

コ 顕微鏡で見てみよう！

日 時 2月23日（日・祝）
2月24日（月・振）
①9時～12時 ②13時～16時
場 所 実験・工作室

サ 銅鏡のレプリカを作ってみよう！

日 時 2月29日（土）
①13時30分～14時30分
②15時～16時
場 所 実験・工作室

(4) ミュージアムトーク

実施日	時間	場所	内容	担当(分野)	参加者
4月6日	11時～11時30分	常設展示室2階 生物エリア	魚類の毒について	清水 稔(動物)	30名
4月30日	11時～11時30分	常設展示室2階 生物エリア	江津湖の植物	山口 瑞貴(植物)	10名
5月6日	13時30分～15時	特別展示室	企画展「きらめく!大名道具」	木山 貴満(歴史) 竹原 明理(美術工芸)	未集計
5月19日	11時～11時30分	常設展示室2階 生物エリア	身近な鳥について	清水 稔(動物)	23名
5月19日	14時～14時30分	特別展示室3	地質の日展示「身近に知る『くまもと』の大地」 展示解説	南部 靖幸(地質)	18名
6月9日	13時30分～15時	特別展示室 1・2・3	(リレーミュージアムトーク) 企画展「きらめく!大名道具」 企画展「自然のおいしい味わい方」地質展示解説	木山 貴満(歴史) 竹原 明理(美術工芸) 南部 靖幸(地質)	未集計
6月16日	14時～14時30分	特別展示室3	企画展「自然のおいしい味わい方」動物展示解説	清水 稔(動物)	20名
6月23日	14時～14時30分	特別展示室3	企画展「自然のおいしい味わい方」植物展示解説	山口 瑞貴(植物)	25名
6月30日	14時～14時30分	特別展示室3	企画展「自然のおいしい味わい方」地質展示解説	南部 靖幸(地質)	21名
7月14日	14時～14時30分	常設展示室2階 地質エリア	阿蘇と火山	南部 靖幸(地質)	8名
7月15日	11時～11時30分	常設展示室2階 生物エリア	江津湖・金峰山の植物	山口 瑞貴(植物)	8名
8月10日	14時～14時30分	特別展示室	特別展「世界の昆虫」展示解説	清水 稔(動物)	44名
8月20日	14時～14時30分	特別展示室	特別展「世界の昆虫」展示解説	清水 稔(動物)	30名

実施日	時 間	場 所	内 容	担当（分野）	参加者
8月24日	14時～14時30分	特別展示室	特別展「世界の昆虫」展示解説	清水 稔（動物）	10名
8月25日	14時～14時30分	特別展示室	特別展「世界の昆虫」展示解説	清水 稔（動物）	22名
9月23日	11時～11時30分	常設展示室2階 生物エリア	知られざる外来種について	清水 稔（動物）	10名
10月 5日	14時～14時40分	特別展示室	特別展「追憶の熊本」展示解説	木山 貴満（歴史） 竹原 明理（美術工芸）	38名
11月 2日	14時～14時40分	特別展示室	特別展「追憶の熊本」展示解説	木山 貴満（歴史） 竹原 明理（美術工芸）	8名
11月 9日	14時～14時40分	特別展示室	特別展「追憶の熊本」展示解説	木山 貴満（歴史） 竹原 明理（美術工芸）	12名
11月17日	14時～14時30分	常設展示室2階 地質エリア	ゾウ化石と陸橋の象徴	南部 靖幸（地質）	8名
11月23日	14時～14時40分	特別展示室	特別展「追憶の熊本」展示解説	木山 貴満（歴史） 竹原 明理（美術工芸）	25名
1月25日	14時～14時30分	常設展示室2階 生物エリア	身近な哺乳類について	清水 稔（動物）	4名
1月26日	14時～14時30分	特別展示室3	企画展「生命のれきし」展示解説	南部 靖幸（地質）	34名

(5) その他

ア 身近に知る「くまもとの大地」びふれす広場イベント

特別展示室3で開催した「地質の日」展示にあわせて、びふれす広場でも同様の展示と体験イベントを行った。当館からは、フズリナの磨り出し体験と「自然のおいしい味わい方」のプレ展示を出展した。

日時 5月11日(土)

10時～16時

場所 びふれす広場

担当者 南部 靖幸(地質)

山口 均(理工)

参加者 約900名(フズリナ体験115名)



イ 夏休み自由研究相談会

日時 ①7月20日(土)

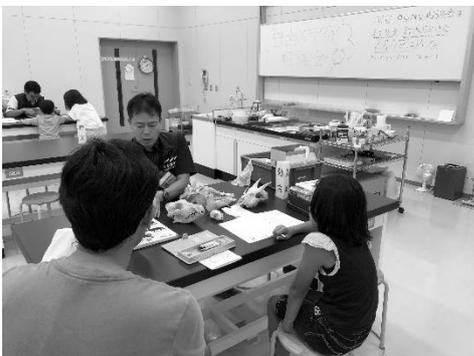
②8月17日(土)

13時～16時

場所 実験・工作室

担当者 学芸班職員

参加者 12名



ウ 夏休み化石観察会

小学生以上の子どもたちや保護者を対象に、大型バスで天草の化石産地に行き、露頭の観察や転石の採集などを行った。また、道中では車窓から見える地形や、その成因となる地質を紹介した。参加者のうち希望者には翌日、博物館内で化石のクリーニング体験を実施した。

日時 7月27日(土)

9時～17時

場所 熊本県天草市龍ヶ岳町

担当者 南部 靖幸(地質)

参加者 47名

(うちクリーニング体験参加 20名)



エ コズミックカレッジ「宇宙飛行士に挑戦」

ホワイトパズルやミラーボックスなどを用いて宇宙飛行士に必要なスキルを楽しく学んだ。

日時 8月24日(土)

14時30分～15時30分

場所 実験・工作室

担当者 野村 美月(天文)

参加者 30名

オ アウトリーチイベント「科学実験で宇宙・

惑星・地球の不思議を体験しよう！」

子どもの理科離れを解消するため、実物に触れることを通じて地球や宇宙の面白さや楽しさを体験してもらうことを目的に、学会に所属する様々な分野の「はかせ」達が全国から一堂に会し、ラジオ工作、ピンポン玉惑星工作、実物展示等を実施。

共 催 地球電磁気学・地球惑星圏学会
熊本博物館

日 時 10月27日(日・祝)
10時～15時

場 所 講堂、実験・工作室、
プラネタリウム前室

担当者 南部 靖幸(地質)

参加者 534名



アンモナイトの型枠に樹脂をつめる作業



キ ぬりえで復元！ステゴサウルス

国立科学博物館とのコラボミュージアムの関連イベント。専用の用紙にぬりえをすると、その絵の恐竜が画面中で立体になって動き、一緒に記念撮影できるAR体験。ぬり絵の前にステゴサウルスの骨格復元の変遷史を紹介し、参加者に自分なりの恐竜の色彩推定を促した。

日 時 12月28日(土)

①10時～ ②12時～ ③14時～

場 所 実験・工作室

担当者 南部 靖幸(地質)

参加者 76名



カ クリスマスツリーをアンモナイトでかざろう

クリスマスにあわせ、お湯で軟化する樹脂を使ってアンモナイト型のクリスマスツリーオーナメントを作る活動を実施。樹脂を冷ます待ち時間にはクリスマスにちなんだ古生物クイズを行った。

日 時 12月22日(日)

①10時～ ②13時～ ③14時～

場 所 実験・工作室

担当者 南部 靖幸(地質)

参加者 28名



※以下の観察会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

ク 春の化石観察会

日 時 3月22日(日)

9時～17時

場 所 熊本県天草市龍ヶ岳町

担当者 南部 靖幸(地質)